

令和元年5月29日 小田川市長定例記者会見 一問一答（要約）

- 読売新聞 認知症予防事業のあたまの健康チェックについて、導入するのはテストのようなものか。それとも機械のようなものか。
- 保健福祉部長 あたまの健康チェックについては、10分程度の質問を対面式で行うもので、テストの結果で認知機能を判断する。
- 読売新聞 それは公民館などでできるのか、それとも市役所に来てもらって行うのか。
- 介護福祉課長 あたまの健康チェックはインターネット環境が必要なため、いまのところ伊奈庁舎での実施を考えているが、公民館でも実施可能であればそちらも検討していきたい。
- 読売新聞 それからもう1点、シニアストレッチリーダーの講座について。全国初とあるがこれはどういったことをやるのか。
- 市長 この事業は筑波大学の先生と一緒に実施する。
- 保健福祉部長 こういった講座はこれまで実施されていなかったということで、「全国初」としている。
- 朝日新聞 いだてん給食について、3点聞きたい。今回、熊本とスウェーデンの料理があるということだが、メニューについては専門の方など、誰か監修をしている人がいるのか。給食を食べる学校数、児童数は。こういったメニューを出して、児童にどんなことを感じてほしいか。
- 市長 メニューは給食センターの栄養士が監修する。当時と同じものというわけにはいかないが、当時食べられていたであろう食事や、名物料理を食べてもらいたいということから実施する。また、NHK大河ドラマの「いだてん」を撮影している「ワープステーション江戸」をもっと市内の子どもたちにも知ってもらいたいという期待を込めている。
- 教育長 毎年6月は食育月間となっており、毎年いろいろなものを提供している。今年は「いだてんウィーク」ということで、地元の食材をたくさん使った給食を提供する。給食を通じて当時の想いを知ってもらいたいのと、熊本やスウェーデンといった遠い場所にも想いを馳せてもらいたいと思っている。子どもたちには後で感想を聞きたいと思う。子どもたちの数は、小学校12校で約3200人、中学校1160人、幼稚園で459人、教職員も合わせて全部で5200食ほどになる。
- 茨城放送 いだてん給食について。視聴率のことが言われているが、それに対する寄与だったり、つくばみらい市への関心などを高めてほしいなど、そのあたりの狙いは。
- 市長 今年1月にワープステーション江戸がリニューアルし、新たに近現代エリアがオープンした。非常に多くの方が来てくれている。入場者数もできる前と後ではかなり増えていると聞いている。私も休日にたまに見に行く機会があるが、にぎわっている印象。施設としては「いだてん」の効果が高く、皆さんに関心を持ってもらっている。視聴率はこれから徐々に上がってくれたら。

茨城放送
市長 大河ドラマが始まる前と始まってからではどれくらい入場者数が増えているのか。休日でも1日100人いなかった入場者数が、今は700人以上来ている日があると聞いている。かなり増えたと思う。

茨城放送
市長 シニアストレッチリーダーとあたまの健康チェック、あたまと体の健康教室、今回これらを施策に取り入れることになったきっかけと、こうなってくれたら、という想いは。

市長 昨今、高齢者の運転する車の事故で命が失われるという悲惨な事件があった。シニアストレッチに関しては、健康維持のため65歳以上の方に勧めたい。もっと若い方でも。健康づくりのために進めていきたいと思っている。あたまの健康チェックと教室については、高齢者の認知症予防にもつながる。当市は農業をやっている方が非常に多い地域で、生活に車は欠かせない。公共交通の再編を行っているが、車の免許を返すことが難しい地域でもある。免許の返納を促す一方で、その後の対応も考えていかなければならない。行政として取り組めるものとして、認知症のセルフチェックを取り入れ、認知症の予防を働きかけていきたい。

茨城放送
市長 つくばみらい市の高齢者率は。
当市の高齢化率は今年の4月で26%、人数でいうと1万4千人弱。合併当初からみて7%くらい伸びている。合併当時は20%弱だったと記憶している。着実に高齢化が進んでいる印象。

保健福祉部長
茨城放送 高齢化率は今年の4月現在で26%、人数は1万3千419人。
そういう背景は、シニアストレッチリーダー講習やあたまの健康といった施策の背景にもなっていると。

市長 そういう背景もある。成果が出るのはもっと後になることはわかっているので、まずはやってみる、新しいものを取り入れてみるころから進めていきたい。

毎日新聞 頭の健康チェックとあたまどころだ元気教室は、当初予算に入っていたのか、補正予算で計上したのか。
保健福祉部長 当初予算に入っていた。
毎日新聞 金額は。
保健福祉部長 あたまの健康チェックの方が130万円、あたまと体の元気教室が44万6千円。
毎日新聞 健康チェックも元気教室もどちらも無料か。
介護福祉課長 無料である。
朝日新聞 ストレッチリーダーで想定している人数は。定員は30人ということだが、将来的にもっと大きな数を想定しているのか。大倉先生の専門は何か。
保健福祉部長 大藏先生は高齢者の運動について、大変熱心な方。この講座でストレッチリーダーを養成して、そのリーダーとなった方が地元に戻ってそれを広めていってもらおうと。質問の答えになっているかどうかはわからないが、市ではそのように考えている。
朝日新聞 大藏研究室として、今回の研究の目的は、高齢者がリーダーとなって、高齢者に教えることなのか。また、シルバーリハビリ体操指導士との違いは。
市長 シルバーリハビリは椅子に座りながらやる体操。なるべく負荷をかけないように体

を動かす内容になっている。市内でも毎日のようにどこかの場所で開催している。非常に人気のあるメニューになっている。今回新たに行うストレッチの方は、体操というよりは、身体を動かす、さらに負荷をかけた本格的なものになる。

茨城新聞

ストレッチリーダーの養成講座には大蔵先生は来るのか。

保健福祉部長

大蔵先生が直接こちらに来て直接指導するということはない。

茨城新聞

指導はどんな人が行うのか。

保健福祉部長

大蔵先生の研究室のメンバーが行う。

茨城新聞

では大学院生が教えるということか。

保健福祉部長

そうなると思う。

茨城新聞

なぜつくばみらい市が選ばれたのか。

保健福祉部長

当市と筑波大は官学連携を行っているので、その関係で。

茨城新聞

茨城県内ではつくばみらい市だけか。次年度以降の展開はどうなるのか。県内に広げていくなどの考えは大蔵先生にあるのか。

保健福祉部長

実施は当市だけ。今後の展開は大蔵先生としては考えていると思うが、まずはつくばみらい市での結果がこれからの広まりになってくると考える。

茨城放送

筑波大学がつくばみらい市を選んだ理由について。官と学の連携について、選んでもらったとき、筑波大学から市にはどんな説明があったのか。

介護福祉課長

当市の総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブみらい」と大蔵先生の研究室が接点があり、そこから介護福祉課を紹介してもらった。その際、官学連携で新しい研究をしたいという話があった。その縁でつくばみらい市が選ばれた。

毎日新聞

学校の統廃合について。統合に向けて計画を進めているということだが、一般的に「統合を決めた」というのはどういう段階で、それはいつ頃来るのか。

市長

今年の3月15日に臨時教育委員会で、来年の4月に統合するという計画を策定した。これをもって私は「統合を決めた」ことになる。議会にも3月にそう報告している。

毎日新聞

条例が変わるとなれば議会の承認も必要になるのか。

教育部長

学校の設置が例規で決まっている。三島小と谷井田小、東小と板橋小が統合するというのがある。校名なども準備委員会で決めている。決まった段階で、例規にものってくる。来年の3月には決定する予定。

毎日新聞

谷井田小と板橋小の校舎はそのまま使うのか。

市長

そのまま使用する。

(終わり)